



バックエンド部会 第60回全体会議

日時: 2024年3月27日(水) 12:05~12:55

会場: 日本原子力学会「2024年春の年会」

A会場(21号館2F 21-203)

バックエンド部会第60回全体会議



2024年3月27日(水)12:05～ 於 A会場

【議事次第】

- 部会長挨拶
- 2023年度バックエンド部会表彰
- 2023年度活動報告
 - ① 企画報告(企画セッション、夏期セミナー、PSWG他)
 - ② 広報報告(部会HP小委員会活動、週末基礎講座)
 - ③ 出版報告(部会誌の発行状況等)
 - ④ 庶務報告(海外発表助成・研究会支援制度、
2024年度運営委員改選)
 - ⑤ 会計報告(収入・支出実績)
- 報告事項



坂本部会長挨拶



2023年度バックエンド部会表彰

2023年度バックエンド部会賞 受賞要件



功績賞

バックエンド分野において幅広くかつ顕著な貢献のあった個人、毎年1名以内

業績賞

バックエンド分野において顕著な学術または技術上の業績のあった個人またはグループ、毎年2名以内もしくは1グループ以内

奨励賞

バックエンド分野において顕著な学術または技術上の業績のあった概ね40才までの個人、毎年3名以内

本年度は奨励賞の該当者はナシ。

功績賞



受賞者

河西 基 殿 ((株)アサノ大成基礎エンジニアリング)

選考理由:

受賞者は、研究機関および所属企業に在職中、バックエンド分野の研究開発に従事し、放射性廃棄物処分の研究・開発分野において、地下水理、安全評価の観点から多くの研究成果を挙げてきた。特に、低レベル放射性廃棄物処分の安全確保に関し、余裕深度処分(現、中深度処分)の不確実性を考慮した長期の安全評価の考え方の取りまとめに大きく貢献した。また、1F事故の初期段階での汚染水対策の検討への参画など、長年にわたり我が国のバックエンド分野の発展に大きく貢献してきたことは明白である。

学会においては、日本原子力学会バックエンド部会長、バックエンド部会の下で取り組んでいる放射性廃棄物管理に関する東アジア国際フォーラム(EAFORM)の立ち上げ、標準委員会の分科会の主査を歴任するなど、同分野での学術活動への貢献は顕著である。

以上、受賞者のバックエンド分野における功績は著しく、功績賞に値するものと思料する。今後のバックエンド分野の指導的役割とともに、司令塔としての活躍を強く期待することを付記したい。

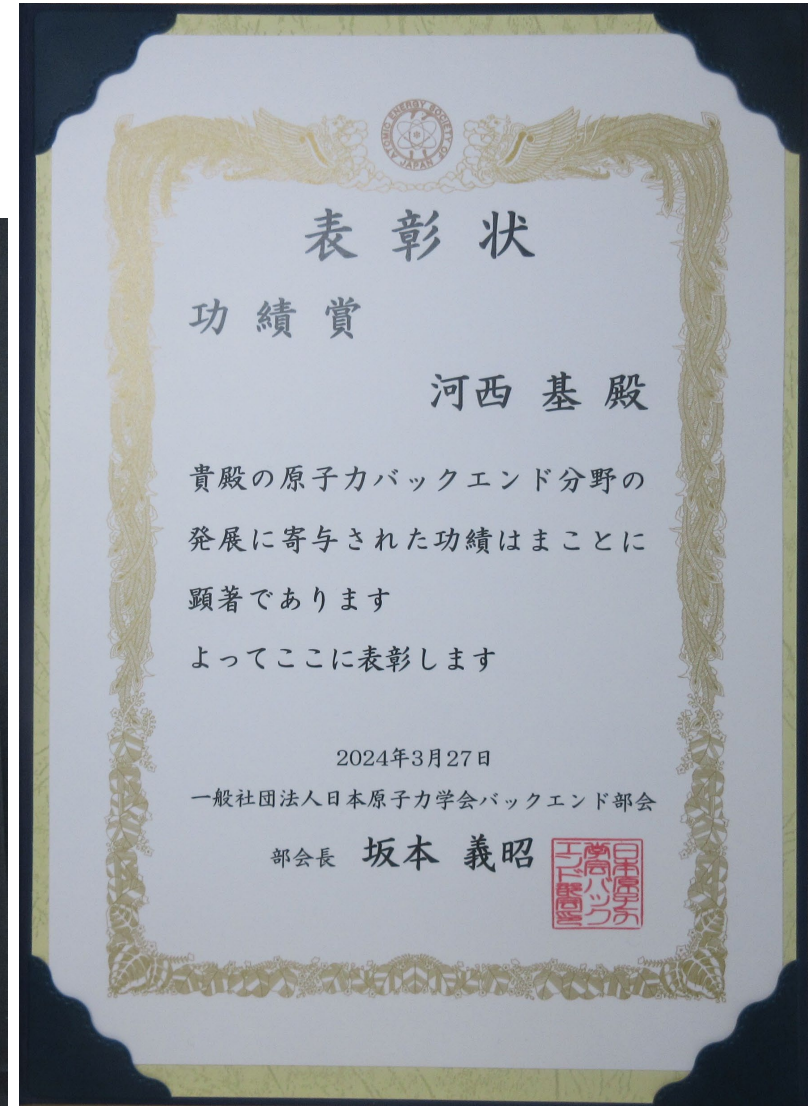
功績賞



受賞者

河西 基 殿

((株)アサノ大成基礎
エンジニアリング)





受賞者

日本原燃株式会社 埋設事業部 殿

選考理由:

受賞者は、1992年に我が国最初の低レベル放射性廃棄物埋設施設として廃棄体を受入れ、30余年にわたり安全な操業を続けてきた。この間、事業変更許可申請を通じて、低レベル放射性廃棄物に対してどのように設計・建設・操業・覆土を行い、安全性を確保しようとしているのかについて、最新の科学的知見や技術開発成果を統合して包括的に説明することにより、低レベル放射性廃棄物処分に関する規制適合性を示した。さらに、日本の地質・環境条件に適合したコンクリートピット処分の工学的安全性能等について、その技術の標準化のための貴重なデータを学協会に提供し続け、放射性廃棄物処分のさらなる技術的信頼性の向上に寄与してきた。

これらはバックエンドの中核的分野の一つであるところの低レベル放射性廃棄物処分に対する顕著な技術上の功績と認められる。

以上、受賞者のバックエンド分野における成果は著しく、業績賞に値するものと思料する。今後のバックエンド分野の先導的役割とともに、実施主体としての活躍を強く期待することを付記したい。

業績賞



受賞者

日本原燃株式会社
埋設事業部 殿



2023年度バックエンド部会賞 受賞要件



優秀講演賞

バックエンド分野に関する，日本原子力学会またはバックエンド部会が主催・共催する行事において優れた口頭発表をおこなった個人を対象。各行事で原則1件以内。また，学生優秀講演賞を別途設置する場合には，各行事でさらに1件を追加。

ポスター賞

バックエンド分野に関する，日本原子力学会またはバックエンド部会が主催・共催する行事において優れたポスター発表をおこなった個人を対象。各行事で原則1件以内。また，学生賞を別途設置する場合には，各行事でさらに1件を追加。

下線部は後述の“2023年度活動報告”にて報告

優秀講演賞



2023年春の年会
受賞者

宇都宮 聡 殿

(九州大学)

選考理由:

2023年春の年会の口頭発表2107「福島第一原発由来デブリ片中のプルトニウム存在状態」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。



優秀講演賞



2023年秋の大会 受賞者

魚住 浩一 殿

(電力中央研究所)

選考理由:

2023年秋の大会の口頭発表1F13「福島第一原子力発電所の燃料デブリ取出しに向けたダスト飛散率データの整備 (8)詳細データ試験装置による各工法の飛散率データ取得と工法間比較」について、「“優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



学生優秀講演賞



2023年春の年会
受賞者

ANIL CAN YILDIRIM 殿

(東京大学)

選考理由:

2023年春の年会の口頭発表3G12「The Effect of Structural Interaction of Radionuclides and Sodium Alkalinized Metakaolin-Based Geopolymer on Leakage from Host Matrix」について、「“学生優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



学生優秀講演賞



2023年秋の大会
受賞者

川口 未知可 殿

(芝浦工業大学)

選考理由:

2023年秋の大会の口頭発表2E22「液相焼結固化の構築を目指したCs吸着モルデナイトの相転移挙動の検討」について、「“学生優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



ポスター賞



第39回バックエンド夏期セミナー 受賞者

山本 修一 殿

(大林組)

選考理由:

第39回バックエンド夏期セミナーポスターセッション「再冠水時の人工バリア内の間隙空気圧の発達挙動」について、「“ポスター賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



学生ポスター賞



第39回バックエンド夏期セミナー 受賞者

菅原 健太郎 殿

(東海大学)

選考理由:

第39回バックエンド夏期セミナーポスターセッション「使用済MOX燃料熱特性を考慮した処分場設計の検討」について、「“ポスター賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



2023年度バックエンド部会賞 受賞要件



論文賞

部会誌「原子力バックエンド研究」に掲載された過去3年間の論文を対象。毎年1編以内。ただし、主著者が同一であり、複数の論文が一連となっている場合は、1編とみなすことができる。

功労賞

バックエンド部会の発展に顕著な功労のあった個人を対象。平成27年度新設。毎年2名以内。

本年度は功労賞の該当者はナシ。

論文賞



受賞者

新橋 美里	殿	電力中央研究所
横山 信吾	殿	電力中央研究所
渡邊 保貴	殿	電力中央研究所
吉川 絵麻	殿	電力中央研究所
湊 大輔	殿	電力中央研究所

選考理由:

部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.30-2 (2023.12)に掲載の論文「15年間吹付コンクリートに接した軽石凝灰岩のアルカリ影響」について、「論文賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。





2023年度活動報告

①企画A報告【大会・年会における企画セッション】



【2024年春の年会】

□バックエンド部会 企画セッション

[2A_PL]廃止措置の着実且つ効率的な推進に向けて

2024年3月27日(水) 13:00 ~ 14:30 A会場 (21号館2F 21-203)

座長: 渡邊 直子(北大)

[2A_PL01] 廃炉制度措置の概要と廃炉推進について

小田 利之 (電事連)

[2A_PL02] 事業者連携・研究開発の在り方

井口 幸弘 (福井大)

[2A_PL03] 廃止措置費用評価の考え方: 国際比較からの学び

堀内 精彦 (OKAMURA)

[2A_PL04] クリアランス再利用とステークホルダー関与

福嶋 輝彦 (PTP)

[2A_PL05] 総合討論

講演者全員

【2024年秋の大会】

企画のアイデア・ご希望がございましたら、運営小委員会委員までご連絡ください！！(後日に部会メールサービスで案内)

①企画A報告【2024年春の年会 プログラム編成委員】



■ 以下の方々にプログラム編成にご尽力いただきました。

コード	専門分野	WGリーダー	WGメンバー
505-1	放射性廃棄物処理	桜木 智史 (原環センター)	有馬 立身(九大) 川崎 大介(福井大) 佐藤 淳也(JAEA)
505-2	放射性廃棄物処分と環境	尾上 博則(NUMO)	近藤 陽太(日立GE) 桜木 智史(原環センター) 中林 亮(電中研)
505-3	原子力施設の廃止措置技術	中村 保之(JAEA)	中村 保之(JAEA) 早野 明(JAEA) 尾上 博則(NUMO)

(敬称略)



□第7回国際放射線防護委員会国際シンポジウム(ICRP2023)の開催に合わせて バックエンド部会主催によるサテライトイベントを開催

2023年11月11日(土) 10:00 ~ 12:30 グランドニッコー東京 台場 29階 銀河

「放射性廃棄物処分に関する放射線防護～長期の不確実性への対処を考える」

共催:ICRP2023 実行委員会(Executive Committee of ICRP2023)

協賛:原子力発電環境整備機構, 一般財団法人 電力中央研究所

後援:原子力規制委員会

講演, パネルディスカッション:

TG97レポートの概要

John Takala (ICRP TG座長)

我が国における放射性廃棄物処分に関する規制

真田 祐幸 (原子力規制庁)

地層処分の処分場閉鎖後における放射線安全の評価に対するICRP勧告の適用

石田 圭輔 (NUMO)

六ヶ所低レベル放射性廃棄物埋設センターにおける浅地中処分の長期放射線安全の確保

佐々木 泰 (JNFL)

パネルディスカッション

上記演者及びThierry Schneider (ICRP主委員会委員)

参加者:50名(対面:27名, オンライン:23名), その他(記者)1名



①企画A報告【専門委員会】

□「地層処分のセーフティケースに係る様々なステークホルダーを対象とした理解促進に関する方法の検討」特別専門委員会

- 設立期間:2021年9月～2024年3月
- 地層処分に特有の概念や用語に対する専門家間の認識のずれ、セーフティケースの分かりにくさの原因を整理
- 上記を解消するための重要な用語の解説、コミュニケーション上の配慮事項等を取りまとめ、実践を通じてコミュニケーションのための知識ベースを構築

⇒地層処分に特有の語彙の代表的なもの(「閉じ込めと隔離」,「地質環境」,「セーフティケース」,「安全評価」)についてその理解を助けるための解説等について議論,取りまとめ

①企画B報告 【第39回バックエンド夏期セミナー】



と き:2023年8月24日(木)25日(金)

ところ:ハイブリッド開催(対面+オンライン(ZOOM会議))

テーマ:バックエンド分野の将来ビジョン～実現に向けた人材育成～

参加登録者数:86名(対面49名、オンライン37名)

・BE分野の将来ビジョンとその実現についてグループディスカッションを実施

・ポスターセッション:10件

- ショートプレゼンテーション

- 意見交換、質疑



見学会:北海道新幹線シールドトンネル工事現場

○バックエンド夏期セミナーポスター賞

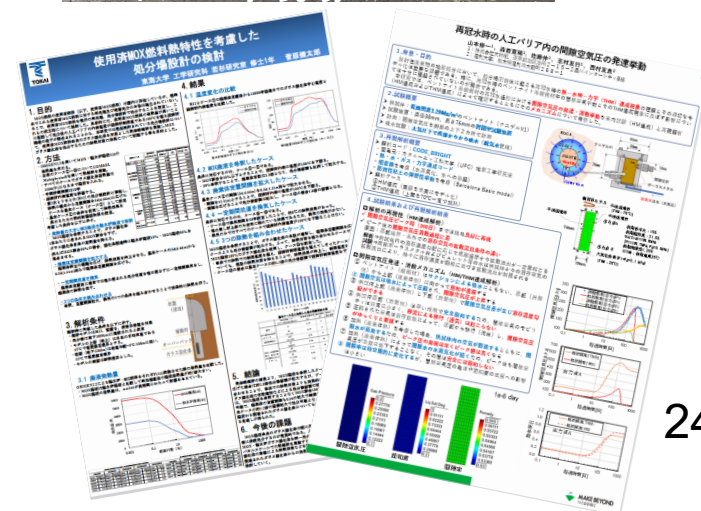
大林組 山本 修一 殿

「再冠水時の人工バリア内の間隙空気圧の発達挙動」

○バックエンド夏期セミナー学生優秀ポスター賞

東海大学 菅原 健太郎 殿

「使用済MOX燃料熱特性を考慮した処分場設計の検討」



・講演再録、セミナー参加記:部会誌Vol.30-2に掲載

①企画B報告【第40回バックエンド夏期セミナー予定】



以下で開催を検討中

○開催日 : 2024年 8月29日(木)PM ~ 30日(金)

○開催方式: 現地開催(開催地は見学会と合わせて調整中)

※現地開催単独の予定(オンライン併用は見送りの方針)

○内容 : 29日 基調講演 & Gr討議 (終了後に懇親会を予定)

30日 見学会(見学地への移動を含む)

○見学会 : 企画・調整中

①企画C報告 【ポジション・ステートメントWG他】



□PSWG (ポジション・ステートメントWG)

- ポジション・ステートメント改革に伴い、現行PSのうち、バックエンド部会が担当していた下記2つのポジションステートメントを見直し中
- 「クリアランス」(解説⇒提言)
 - PS改革によって「解説」区分がなくなるのに伴い「提言」に見直し
 - 「提言」として内容、構成を見直し
- 「高レベル放射性廃棄物の地層処分」(提言⇒提言)
 - 区分の見直しはなし
 - 現行PSが2009年と情報が古いため、最新情報を踏まえ更新

□EAFORM

- 次回ホスト国は中国
- 本来は2024年秋ごろの開催予定だが、中国への渡航制約等、各国の状況を踏まえ開催時期を決める

□日韓原子力学生・若手研究者交流事業運営

- BE部会として今年度の日韓若手研究者の交流の実績は特に無し。
- 今後交流活動の資金について、上限や可能な範囲での参加費徴収等の方針が運営事務局より出された



②広報報告 【R5年度 部会HP小委員会活動】

1. 部会ホームページの管理・運用(9/1~3/18)

<https://nuce.aesj.or.jp/>

- ・部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.30 No.2 掲載、記事・論文等の先行掲載
- ・バックエンド週末基礎講座案内の掲載、・第59回全体会議の資料、議事録の掲載
- ・夏期セミナーパネルディスカッションの結果概要の掲載、・運営委員改選のお知らせ及び結果の掲載
- ・海外発表助成制度候補者、部会賞受賞候補者、フェロー推薦の募集案内の掲載
- ・運営委員改選のお知らせ及び結果の掲載

2. バックエンド部会情報メールサービス(メーリングリストによる情報連絡)

配信実績：R5年度下期 **19件**(9/1~3/18), 配信先 **427名**(3/18現在)

お知らせとお願い

メール配信開始/停止, アドレス変更は部会員からの申告によって行います。(部会加入と連携していません)

配信エラーが続くと自動的に配信停止となります。

メール配信ご希望の方, アドレスの変更があった方は広報担当までお知らせください。

e-mail: info@nuce.aesj.or.jp (部会ホームページをご覧ください)

3. ホームページ小委員会メンバー

齋藤 龍郎	原子力機構	広報委員(2022~)	HP更新, メール配信等の窓口, 運営小委員会との連絡調整
小林 大志	京都大学	広報委員(2023~)	同上
藤原 健壮	原子力機構	広報委員(2024~)	同上
佐々木 隆之	京都大学		運営全体の俯瞰, 企画・提案
秋山 大輔	東北大学		部会情報メール メーリングリスト管理, メール配信
佐原 聡	原環センター		HPサーバー運用・管理(主担当)
平野 史生	原子力機構		HPサーバー運用・管理



②広報報告 【R5年度週末基礎講座 報告】

- 日程: 令和5年11月17日(金)9:00~17:00
- 場所: オンライン(Zoom)
- 参加人数: 計20名(学生5名, 社会人7名, 講師・事務局8名)
- プログラム: 以下の講義(5コマ)とグループディスカッションをオンラインで実施した。

【講義】(講師: 敬称略)

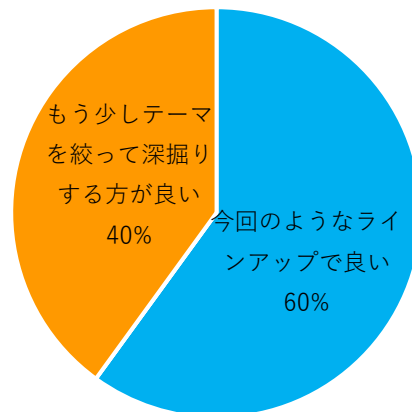
- 講座1: 核燃料サイクルとバックエンドの基礎(原子力機構: 牧野 仁史)
- 講座2: 原子力施設の廃止措置における基盤知識と課題(日本原子力発電: 和田 翔吾)
- 講座3: 低レベル放射性廃棄物処分に関する基盤知識と課題(日本原燃: 吉田 智哉)
- 講座4: 地層処分事業の基盤知識と課題(原子力発電環境整備機構: 松原 竜太)
- 講座5: 高レベル放射性廃棄物地層処分事業への参画意欲育成とスキルアップ
~土木工学の視点から~(バックエンド部会副部会長: 小峯 秀雄)

【グループディスカッション】:

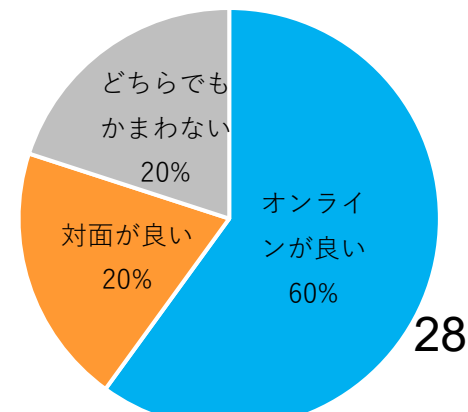
「廃止措置の課題と技術継承/スキルアップ」「廃棄物処分の課題と技術継承/スキルアップ」

- 全体構成、開催時間: グループディスカッションについて、「意見形成の場を持つことは大変参考になる」等の一方、「もう少し討論時間が欲しい」等の課題も挙げられた。
- 講義のラインナップ: 良いとの意見が6割の一方、「一部講義間で重複もあり、内容の深化を」「テーマを絞りつつ様々な講義があると理解が深まりやすい」等が挙げられた。
- 開催方法: 「オンラインが良い」が6割を占め、「対面が良い」(20%)を大きく上回った。平日希望が8割、1日間が好まれた。

Q6 講義のラインナップ



Q8 開催方法





③出版報告 【部会誌の発行】

■ 部会誌「原子力バックエンド研究」 Vol.30 No.2をウェブサイトで公開中

巻頭言	出光一哉	約50年原子力を学んで：
研究論文	大江俊昭	多層構造の人工バリア概念設計のための核種移行遅延機能の簡易評価-各層からの定常放出フラックスの一括導出-
研究論文	新橋美里	15年間吹付コンクリートに接した軽石凝灰岩のアルカリ影響
特集：第39回バックエンド夏期セミナー		
会議参加記	高橋友恵	「第39回バックエンド夏期セミナー」参加報告
講演再録	小崎完	バックエンド分野における人材育成について
	原真太郎	バックエンド分野における人材育成の取組について（英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業）
	瀧谷啓晃	JAEA の廃止措置における人材育成
	徳島秀幸	地層処分に關する人材育成プログラムの実施・作成について
	福井寿樹	ガラス固化における人材育成の特徴と課題について

③出版報告 【部会誌の発行】



■ 部会誌「原子力バックエンド研究」 Vol.30 No.2をウェブサイトで公開中

特集：日本原子力学会2023 年秋の大会 バックエンド部会企画セッション 廃棄物管理のバリデーション・性能担保の考え方		
会議参加記	田中真悟	日本原子力学会2023 年秋の大会バックエンド部会企画セッション 廃棄物管理のバリデーション・性能担保の考え方
講演再録	小澤孝	浅地中処分の性能の検証および妥当性確認の事例
	青木広臣	廃棄物管理のバリデーション・性能担保の考え方（2）中深度処分の規制基準の考え方
	梅木博之	長期間を対象とした高レベル放射性廃棄物の管理におけるバリデーション・性能担保の考え方
	糸井達哉	リスク論の観点から見る原子炉の運転についての安全確保の考え方-廃棄物の安全評価におけるバリデーションと共通する課題は何か-
	バックエンド部会 運営小委員会	廃棄物管理のバリデーション・性能担保の考え方に関するパネル討論
会告		バックエンド部会 関連行事予定

敬称略

③出版報告 【部会員の皆様へのお願い】



■ 部会誌のさらなる内容充実にご協力をお願いします

- ・ 積極的な投稿（情報発信の場としての活用）をお願いします。
概ね40歳までの研究者・学生の論文は、論文賞のみならず
奨励賞の対象となります。
- ・ 査読へのご協力をお願いします
- ・ 特集テーマのご提案をお願いします

※論文の投稿または部会誌へのご意見/ご要望等は下記メールへ

journal@nuce.aesj.or.jp

<http://nuce.aesj.or.jp/journal:info>

④庶務報告 【支援制度】



【海外発表助成制度】

- 若手研究者の海外発表に関する渡航滞在費を助成
- 半期あたり原則1名を対象に13.5万円を限度に助成
- 詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- 2023年度実績：上期分(2月10日締切) 助成なし
下期分(8月10日締切) 助成なし
- 2024年度実績：上期分(2月10日締切) 応募1件(内定)
予定：下期分(8月10日締切)



【研究会支援制度】

- 部会員から研究テーマを公募して研究会を設置
- 研究会の費用を年間13.5万円までを目安に支給
- 会期は最長3年とし、適宜成果を取りまとめて発表
- 詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- 2023年度実績：応募なし
- 2024年度予定：現状なし



④庶務報告 【2024年度運営委員改選選挙結果】



令和6年度運営委員改選選挙結果(敬称略)

役職	氏名	所属
部会長	小峯 秀雄	早稲田大学
副部会長	柴田 雅博	原子力機構
運営委員	吉田 芙美子	原子力発電環境整備機構
//	瀧谷 啓晃	原子力機構
//	竹田 大輔	大日本ダイヤコンサルタント
//	中林 亮	電力中央研究所
//	藤原 健壮	原子力機構
//	白瀬 光泰	大成建設
//	田村 直之	日本原燃

部会員総数: **545**(2023/12/27時点) 有効投票数: **290**(有効投票率: **53.2%**)



※予算実績推移表2024年2月度に基づく

① 通常予算収支

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取掲載料	143,000	旅費交通費	0
受取配分金	339,000	通信運搬費	131,376
		消耗品費	0
		一般外注経費	73,452
		諸謝金	0
		雑費	550
		支払助成金(事)	0
		本部支払回収額	0
<小計>	482,000		205,378
<予算計画額>	589,000		855,000
<執行率>	82%		24%
<収支>			276,622

円

BE研究論文
の掲載料

BE部会、HP、メール使用料、委員改選費など

原子力バックエンド研究の校正費・J-Stage登録費など

請求書発行費など

- 収入の部： BE部会誌の論文掲載料により、予算計画額よりも収入額が増加
- 支出の部： 部会メール使用料などの予算計画通りの定例的な支出のみ
- 下期(10月～2月※)約27万円の黒字⇒未計上の3月支出予定分(部会表彰費など)を加味しても、黒字の見通し



② セミナー予算収支

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取参加費	1,323,000	会議費	1,135,541
受取見学会費	186,000	通信運搬費	239,965
賛助金	250,000	消耗品費	0
補填額	429,957	一般外注経費	0
		出展費	159,500
		委託費	97,400
		雑費	459,106
		本部支払回収額	50,000
<小計>	2,188,957		2,141,512

- ✓ 夏期セミナー: 1,276,000円
- ✓ ICRP: 472,000円
- ✓ 週末基礎講座: 11,000円

- ✓ 夏期セミナー: 1,569,237円
- ✓ ICRP国際サテライトイベント: 572,275円
- ✓ 週末基礎講座: 0円

<予算計画額>	1,670,000	1,404,000
<執行率>	131%	153%
<収支>		47,445

円

- 収入の部: 夏期セミナー/週末基礎講座及びICRPサテライトイベントの参加費・賛助金を計上
- 支出の部: 夏期セミナー及びICRPサテライトイベントの開催費を計上
- 下期(10月～3月): 2023年度は通例の夏期セミナー・週末基礎講座の開催に加えて、ICRPサテライトイベントを開催したため、繰越金や賛助金を活用



※予算実績推移表2024年2月度に基づく

全体収支

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
①通常予算	482,000	通常予算	205,378
②セミナー予算	2,188,957	セミナー予算	2,141,512
<合計>	2,670,957		2,346,890
<予算計画額>	2,259,000		2,259,000
<執行率>	118%		104%
<収支>			324,067

円

- 通常予算は、例年赤字傾向にあったが、CD配布の見直しが反映され改善
- セミナー予算は、収支共にコロナ禍前の面着開催期の水準規模へ



次年度は、CD配布見直しに続く、通常予算のさらなる合理化の余地を検討しつつ、セミナー費の支出超過に留意しながら活発な学会活動を継続できるよう、引き続き適切な予算管理に努める。

バックエンド部会 部会賞表彰細則の改定について

改定前

(表彰の種類, 対象, 数, 要件)

第3条 部会賞に下記賞を設ける。

(5)バックエンド部会ポスター賞:

バックエンド分野に関する, 日本原子力学会
またはバックエンド部会が主催もしくは共催
する行事において優れたポスター発表をおこ
なった個人を対象とする。各行事で1件以
内とする。ただし, 審査により上位一位が複
数の場合はこれに限らない。

改定後

バックエンド分野に関する, 日本原子力学会
またはバックエンド部会が主催もしくは共催
する行事において優れたポスター発表をおこ
なった個人を対象とする。各行事で1件以
内とする。ただし, 審査により上位一位が複
数の場合はこれに限らない。さらに, 次世代
のバックエンド関連の研究者育成の観点か
ら, 特筆する学生からのポスター発表があっ
た場合, 学生賞として表彰できる。各行事で
1件以内とする。ただし, 審査により上位一
位が複数の場合はこれに限らない。

バックエンド部会 部会賞表彰細則の改定について

◆ 背景

2015から2022年度の8年間のうち7回でポスター賞と学生ポスター賞を表彰

◆ 改定趣旨

ポスター賞については、細則では1名以内としているが、これまでの表彰実績をみると社会人と学生への表彰が続いている状況である。このような状況も鑑み、バックエンド分野での学生の育成の観点から、正式にポスター賞の1つとして学生賞を設け、優秀な学生への研究の奨励とできるよう細則を改定する。

なお、優秀講演賞には、学生優秀講演賞として表彰する規定が既にあるため、ポスター賞と講演賞の両方で学生への研究の奨励する制度となる。

◆ 2024年1月12日の運営小委で承認。全体会議に報告後、学会の部会運営委員会、理事会への細則の改定を報告予定



Fin.